

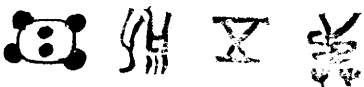
015 (443) 7123

〒602 京都市上京区御前西丸太東町103 九堂嘉文 Phone

〒166 東京都杉並区高円寺南4-34-22 (高円寺) 藤本和男 Phone

〒020 茨岡市中野1-10-31 金野吉晃 Phone 0196 (52) 4673

★表五列に「7」の数字は「7」の数字に「7」を足して「8」にする。



Produced by:

5C-01 The Shameful Parts of Deep Purpline



SIDE A: mono

- 1.The Snake Foot (1:12)
- 2.Halfway End (9:38)
- 3.The Real Child on the Stone Field I (5:50)
- 4.It's a Rainy Day Sunshine Girl (5:38)

SIDE B: stereo(5, 7, 8)/mono(6)

- 5.Cosmic Toilet II (9:28)
- 6.I Can Get (1:22)
- 7.Concrete Tongues (6:11)
- 8.Let's Fever Again (4:03)

All titles by Deep Purpline except 4 by Faust. Special thanks to M.I. on 3.

Recorded 1978.9.2(title 2), 10.19(title 1/3/4), 1979.2.1(title 6) at Geso's room, Kyoto. Other titles: 1978.12.9 at Jojo's.

## 5C-01 についてのメモ

\* Deep Purpline は Jojo・Geso・野性 から成るトリオであり、1978年9月から1979年2月の間に、京都で数回のセッションを行っているが、現在は（3人全員を揃える機会が無い為）解散状態に等しい。各々のプロフィールを紹介しておく。

Jojo: 「Ultra Bide」(5C-00にも収録された、パンク?バンド)及び「螺旋階段」(5C-00にも収録されたが、現在ではILIFE・ベース3人という変則的な編成である)のメンバーでもある。かつては、ハード・ロック・バンドでベースのコピーをしていたこともあるらしいが、ベースはあまり弾けず。マルチ奏者。

Geso: 「Deep Purpline」以外、特定のグループには所属していないが、「第五列」の創始メンバーの1人である。ギターを好むが、あまり弾けず。マルチ奏者。

野性: 昔はハード・ロック・バンドでベースドラムスを担当していたらしいが、共にあまり弾けず。マルチ奏者。

\* 彼らの演奏(演奏と呼ぶのはクマライはあるが)は、①全く何の取りまめもなく為されたものであるか、②特に必然性の無い単純な思い付きに固執して為されたものであるかのいずれかである。このテープにおいては、多分、3, 4, 6の各演奏が②で、他は①であろう。

\* 早い話が、彼らにとって音楽的出自才能志向発展は問題ではないのである。そもそも音楽である必然性など感じていないのである。

\* ファッションでも秘儀でもなく即興行為。誰にでもできる演奏。そうしたものを目指している点において、彼らはパンク・バンドからもアヴァンギャルド・ミュージシャンからも限りなく隔ちた位置にあると言える。

\* 彼らの演奏の殆んどが冗談であるのと同様に、このメモも冗談である。未は白痴か廃人か。死んで五目のソバとなれ。

19790402 Geso,